

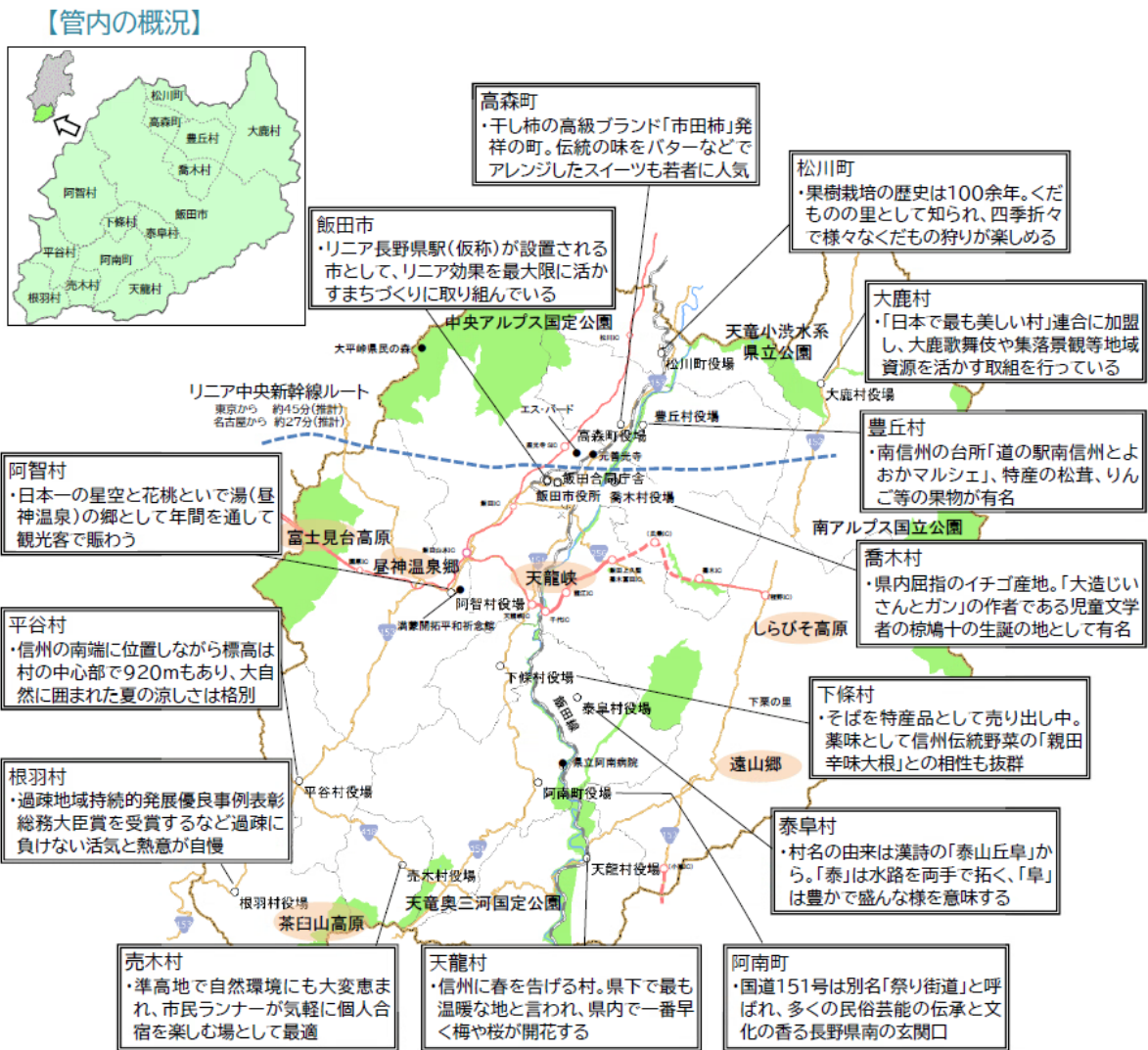
1 地 勢

南信州地域は、長野県の最南端に位置し、岐阜・愛知・静岡の3県と境を接し、1市3町10村で構成されています。

面積は1,929km²で大阪府や香川県より広く、その約86%を森林が占め、耕地は4%程度となっています。

県庁からの距離は、飯田市で約160km、県境の根羽村までは200kmを超えます。

東側を南アルプス、西側を中央アルプスに囲まれた盆地で、ほぼ中央部を天竜川が北から南へ流れています。中央構造線などの断層が走っており、急傾斜地が多い地形です。

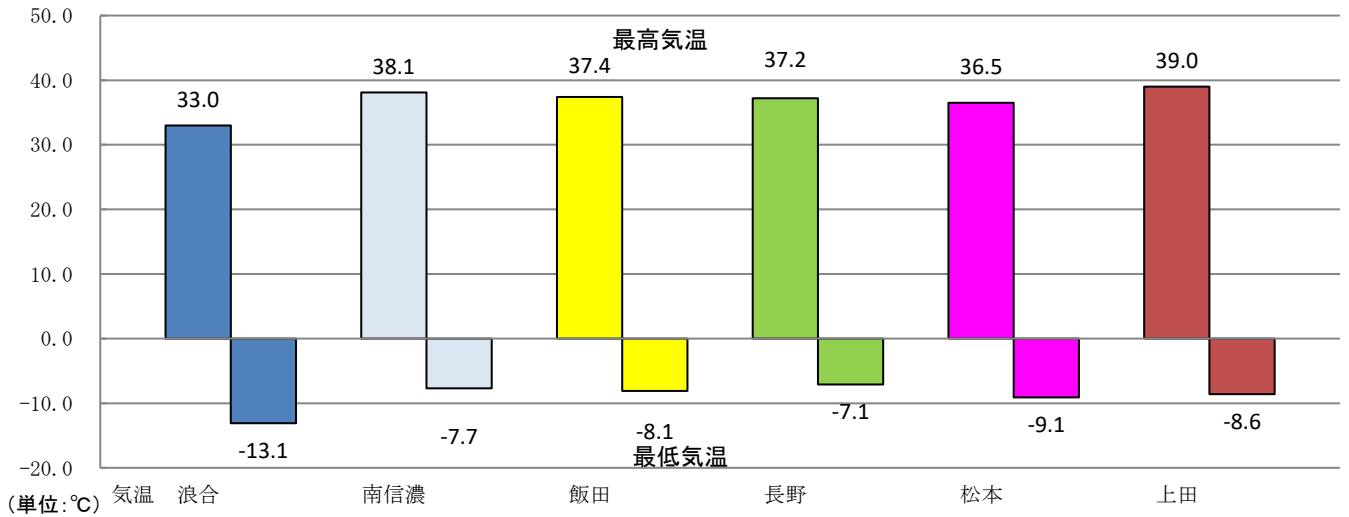


出典：しあわせ信州創造プラン 3.0 (長野県総合5か年計画) 南信州地域計画

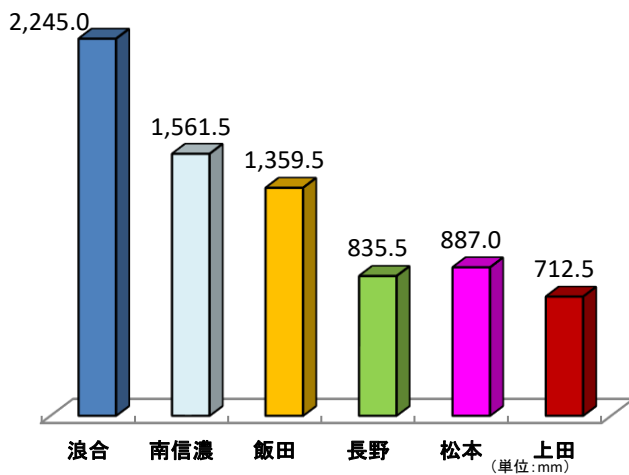
2 気 候

南信州地域は太平洋側の気候に属し、地形が複雑なことから、エリアによって異なりますが、県内の他の地域と比べて温暖な気候で、降水量も多い地域です。

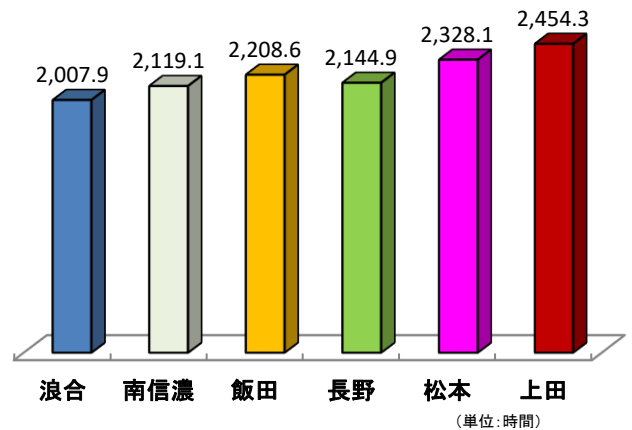
① 令和7年県内観測所別 年間最高・最低気温



② 令和7年県内観測所別 年間降水量



③ 令和7年県内観測所別 年間日照時間



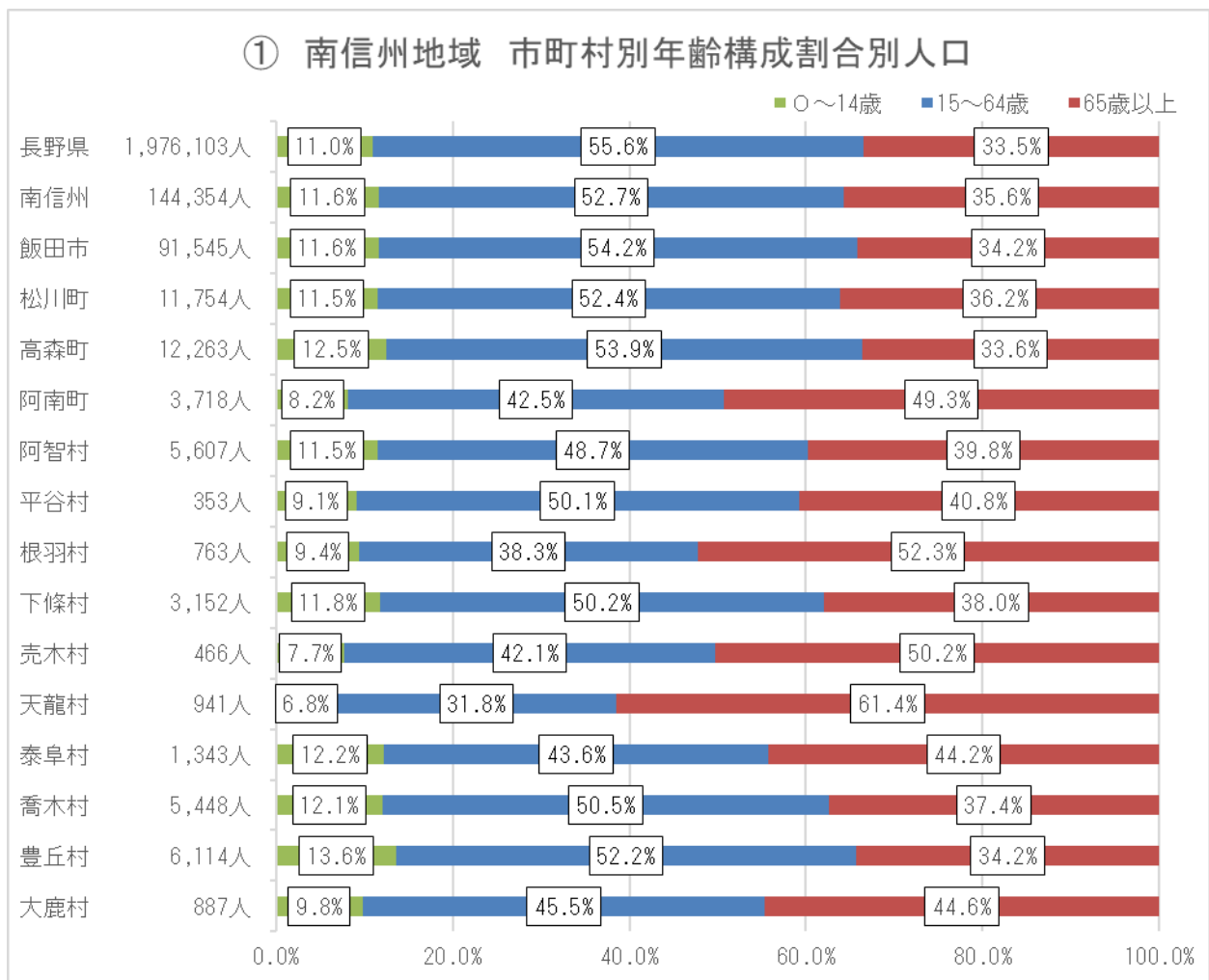
資料：気象庁「気象統計情報」

3 人口動向

(1) 南信州地域の人口は、昭和60年の18万763人をピークに減少局面に入り、令和8年4月1日現在の推計人口は14万4,354人で、年齢3区分別人口は、年少人口(0歳～14歳)1万6,615人(11.6%)、生産年齢人口(15歳～64歳)7万5,490人(52.7%)、老年人口(65歳以上)5万1,015人(35.6%)となっています。

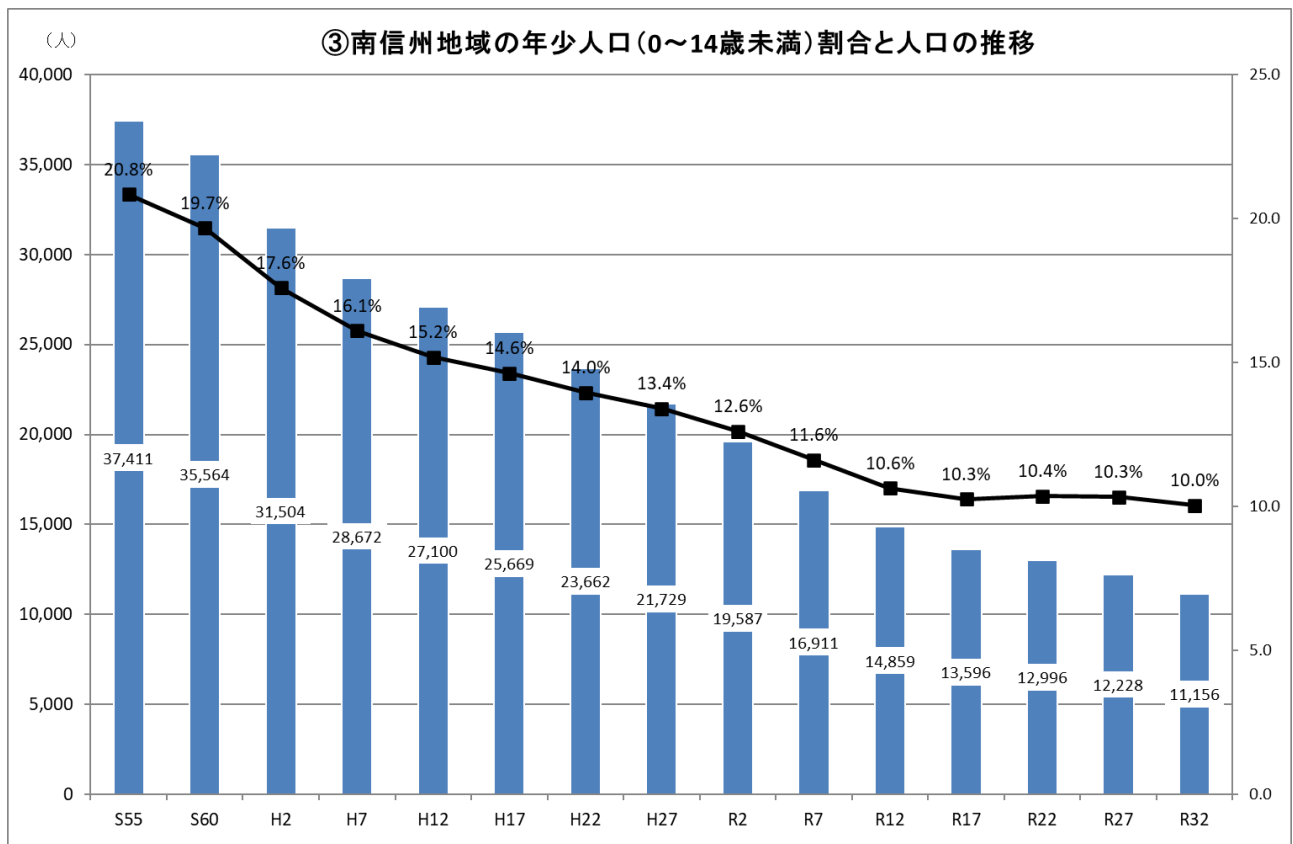
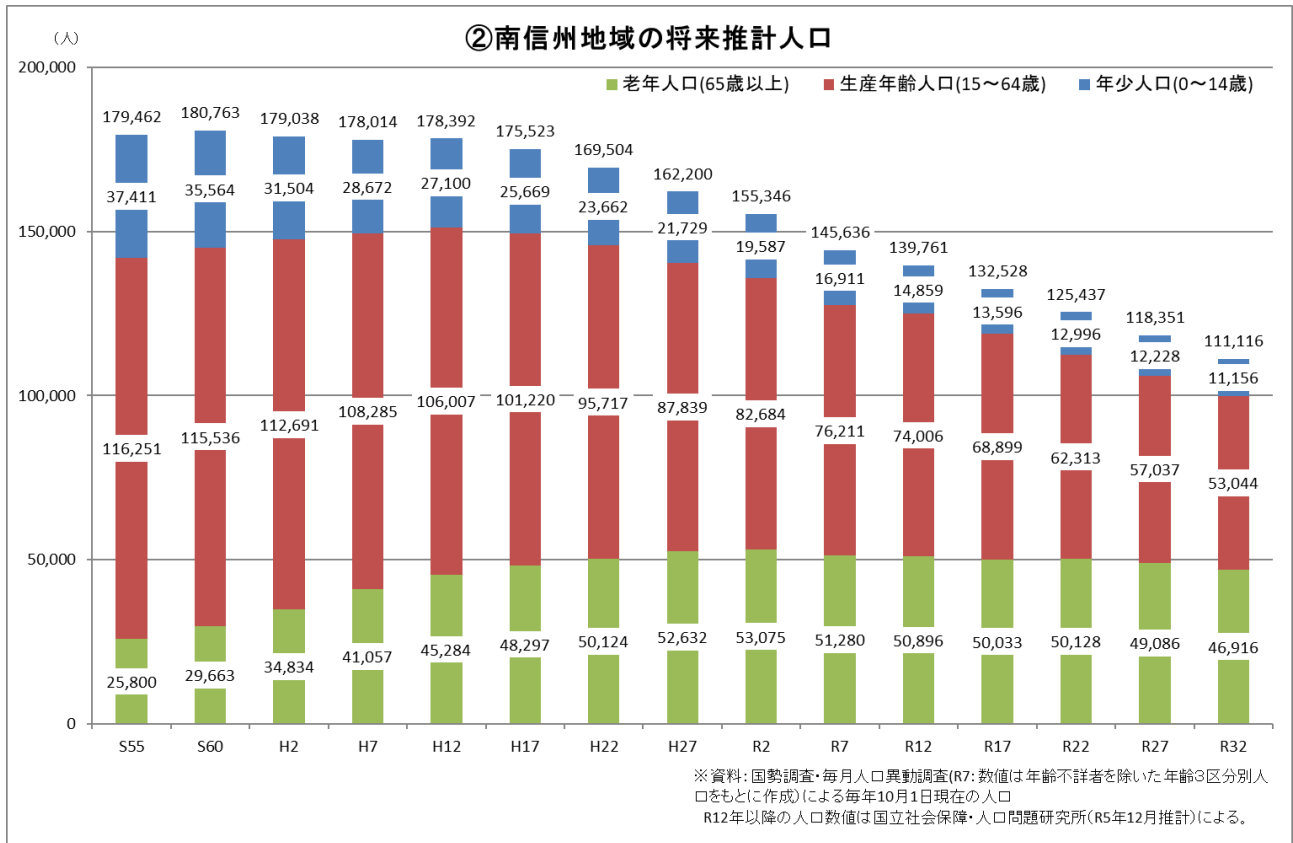
(2) 国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口(令和5年12月推計)では、南信州地域の総人口はこのまま減少を続け、令和27年には12万人を割り込むと推計しています。

年少及び生産年齢の人口割合は減少する一方、老年人口割合は増加し、令和32年には総人口の42%を占める見込みとなっています。

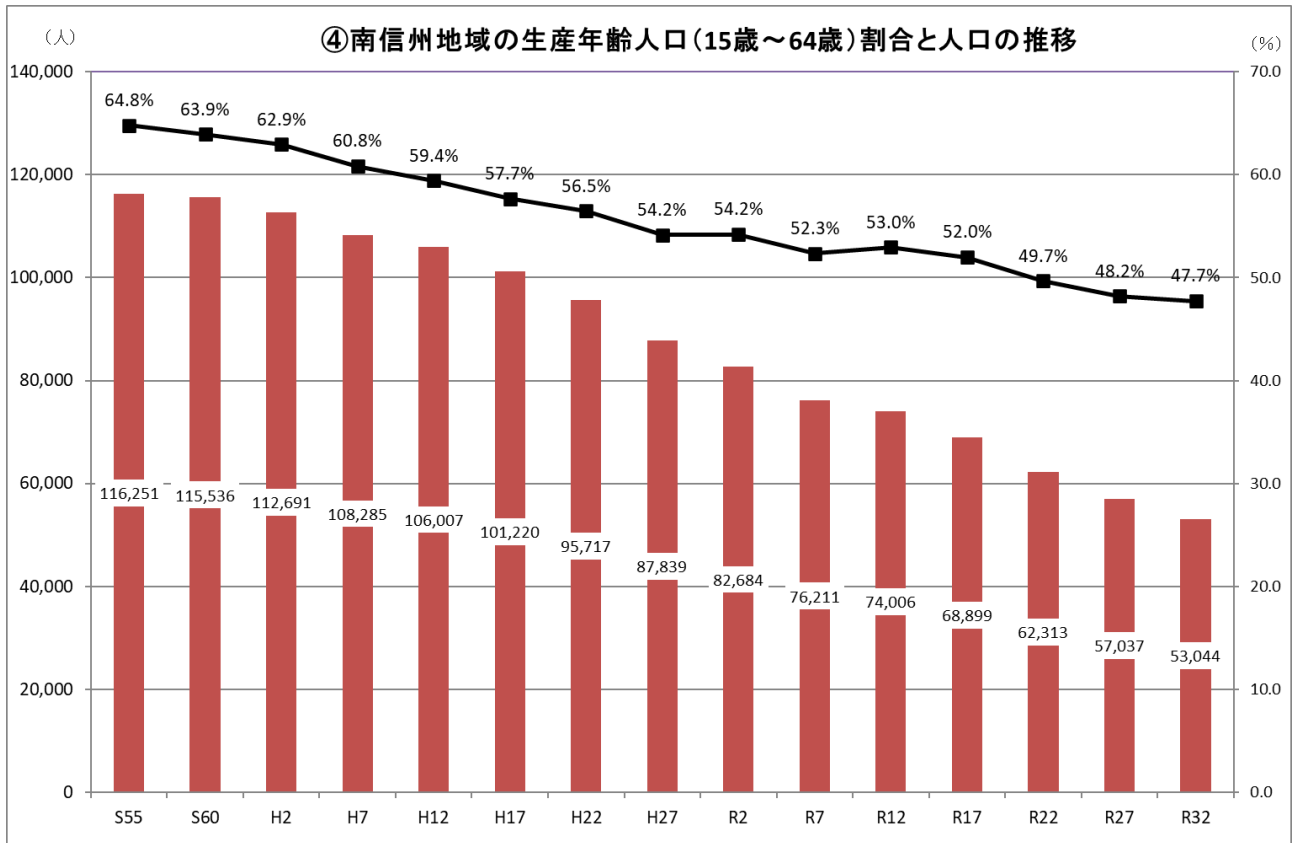


※市町村等の人口には年齢不詳の人数を含む。

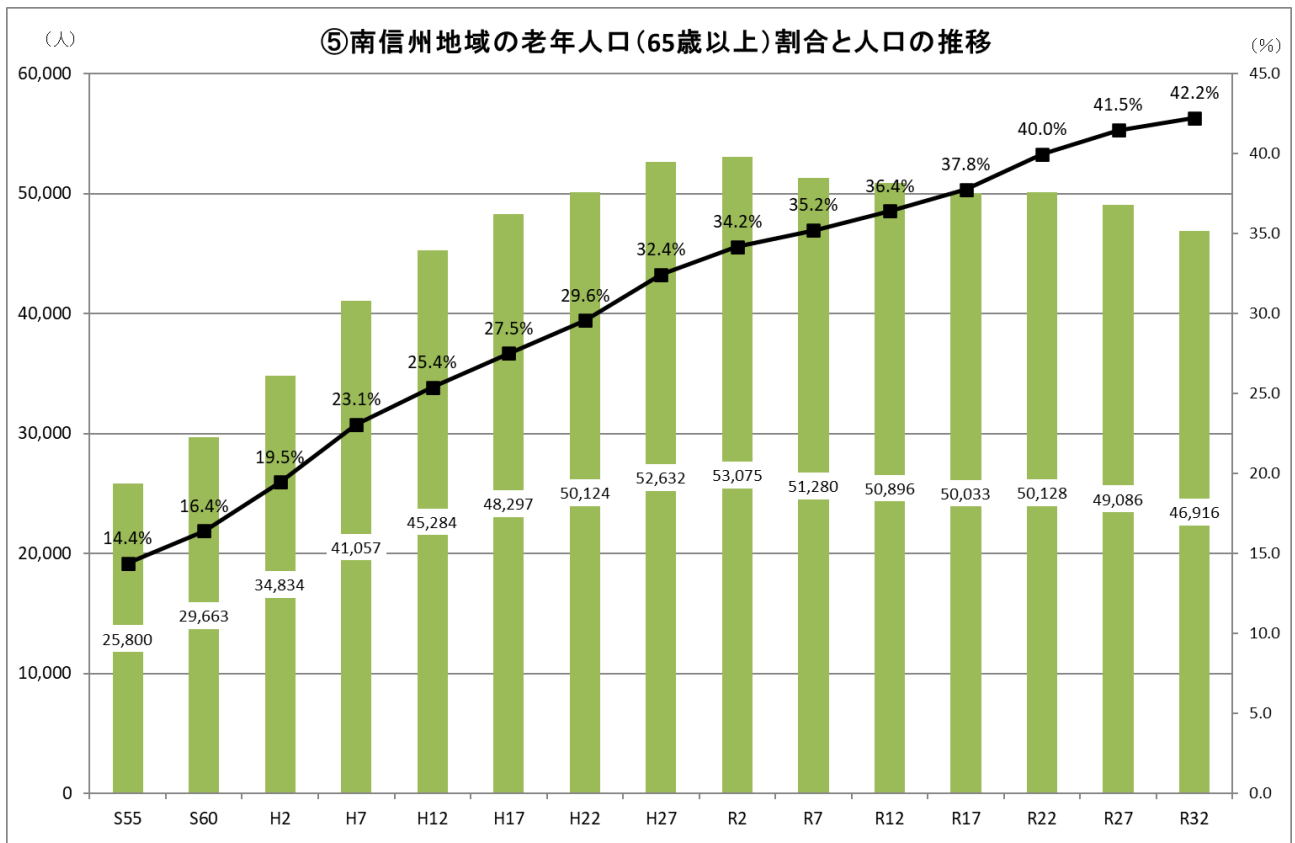
出典：毎月人口異動調査 (R8.4.1)



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計(R5.12)



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計(R5.12)



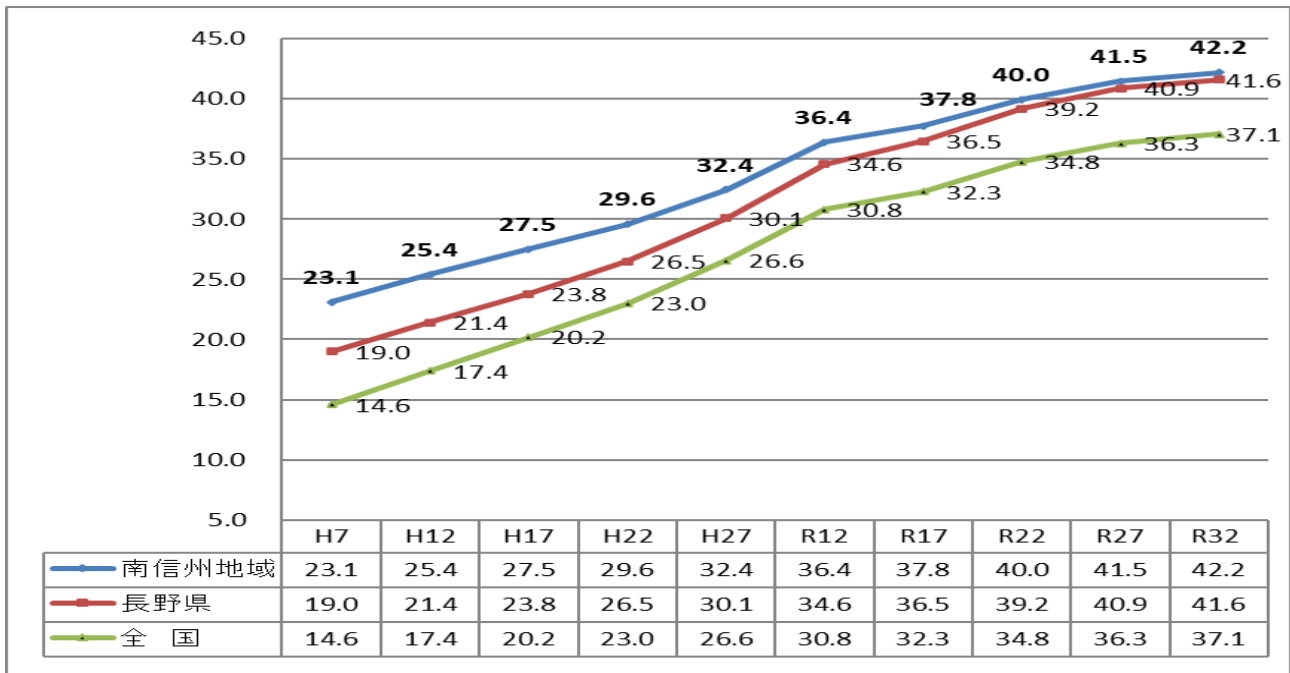
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計(R5.12)

⑥ 令和27年南信州地域の将来推計人口と令和8年に対する増減数・率

	令和8年人口(人)	人口に占める割合(%)			令和27年人口(人)	対R8人口		人口に占める割合(%)		
		年少人口	生産年齢人口	老年人口		増減数(人)	増減率(%)	年少人口	生産年齢人口	老年人口
南信州計	144,354	11.6	52.7	35.6	118,351	△ 26,003	△ 18.0	10.3	48.2	41.5
飯田市	91,545	11.6	54.2	34.2	77,092	△ 14,453	△ 15.8	10.3	49.5	40.2
松川町	11,754	11.5	52.4	36.2	9,379	△ 2,375	△ 20.2	9.8	46.1	44.0
高森町	12,263	12.5	53.9	33.6	10,637	△ 1,626	△ 13.3	10.8	48.5	40.6
阿南町	3,718	8.2	42.5	49.3	2,305	△ 1,413	△ 38.0	5.6	36.8	57.7
阿智村	5,607	11.5	48.7	39.8	3,961	△ 1,646	△ 29.4	10.3	43.1	46.6
平谷村	353	9.1	50.1	40.8	175	△ 178	△ 50.4	10.3	45.1	44.6
根羽村	763	9.4	38.3	52.3	434	△ 329	△ 43.1	7.6	39.6	52.8
下條村	3,152	11.8	50.2	38.0	2,473	△ 679	△ 21.5	9.1	44.7	46.3
売木村	466	7.7	42.1	50.2	357	△ 109	△ 23.4	11.2	41.7	47.1
天龍村	941	6.8	31.8	61.4	445	△ 496	△ 52.7	5.8	33.7	60.4
泰阜村	1,343	12.2	43.6	44.2	992	△ 351	△ 26.1	13.3	42.8	43.9
喬木村	5,448	12.1	50.5	37.4	4,406	△ 1,042	△ 19.1	13.1	44.8	42.1
豊丘村	6,114	13.6	52.2	34.2	5,133	△ 981	△ 16.0	11.5	49.4	39.1
大鹿村	887	9.8	45.5	44.6	562	△ 325	△ 36.6	8.7	39.7	51.6

出典：国立社会保障・人口問題研究所推計(R5.12.22) 毎月人口異動調査(R8.4.1)

⑦ 65歳以上人口割合の推移(%)



<参考> 県内市町村の高齢化率(令和8年4月1日現在) 出典: 毎月人口異動調査(R8.4.1)

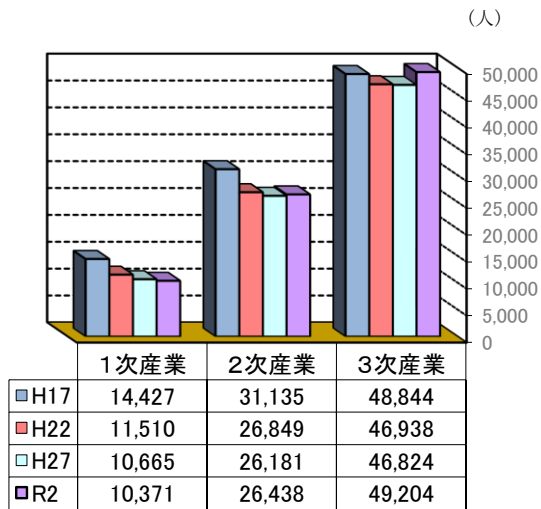
- 第1位 天龍村 61.4%
- 第2位 栄村 57.0%
- 第3位 根羽村 52.3%
- 第4位 売木村 50.2%
- 第5位 阿南町 49.3%
- 第6位 筑北村 49.1%

4 産 業

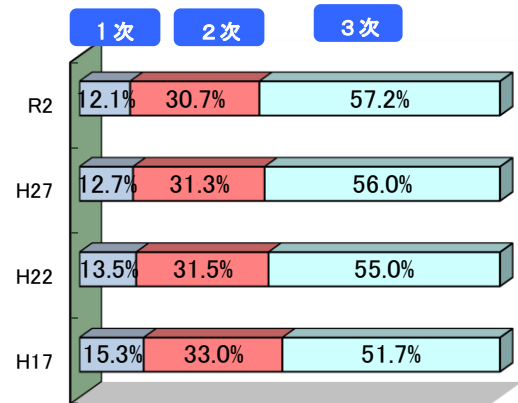
(1) 産業別人口

令和2年の産業従事者は約8万6千人で、第3次産業が57.2%、第2次産業が30.7%、第1次産業が12.1%となっています。令和2年の産業従事者は平成27年に比べ、約2千人増加しました。

【産業別従事者数】



【同構成比】



出典：国勢調査

(2) 農 業

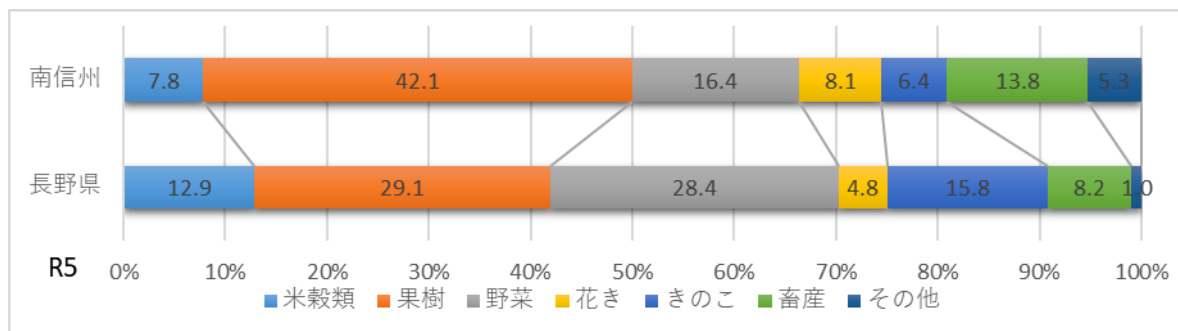
地形的には中山間傾斜地が多く、一農業経営体当たりの耕地面積は81aと県平均148aより小規模ですが、温暖な気候と標高差を活かし、多種多様な作物が生産されています。

農産物産出額は、果樹が全体の約4割を占めており、農産物の加工やグリーン・ツーリズム等、農業・農村資源を活用した取組も見られます。

また、「市田柿」は、地域と結び付き、品質基準を満たす農産物等の名称を知的財産として保護する「地理的表示 (GI) 保護制度」に登録されたことを契機に、更なるブランド構築や輸出拡大を目指した取組が進められています。しかし、年々農業者の高齢化が進んでおり、園地継承や担い手の確保、育成が課題となっています。

【部門別農産物産出額比率】

(単位%)



出典：「令和5年産農産物産出額等実績」

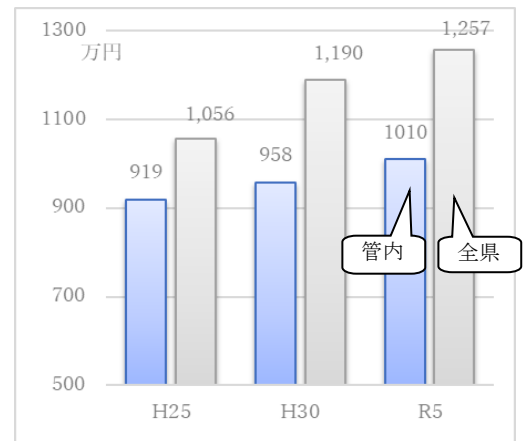
(3) 工 業

管内は、部品の加工や組立を行う企業が多く、令和5年の製造品出荷額等は3,733億円、従業員1人当たりの粗付加価値額は1,010万円となっています。

また、当地域の水引・凍豆腐・半生菓子等の特色ある地場産業は、国内の高いシェアを占めています。

そのほか、県が策定した「長野県航空・宇宙機器産業振興戦略」では、当地域にあるエス・バードの支援インフラの強化や、その活用により航空・宇宙産業の集積を目指しています。

【従業員一人当たりの粗付加価値額】



出典：「工業統計調査、経済構造実態調査」より（R5年度は集計対象範囲が異なる。）

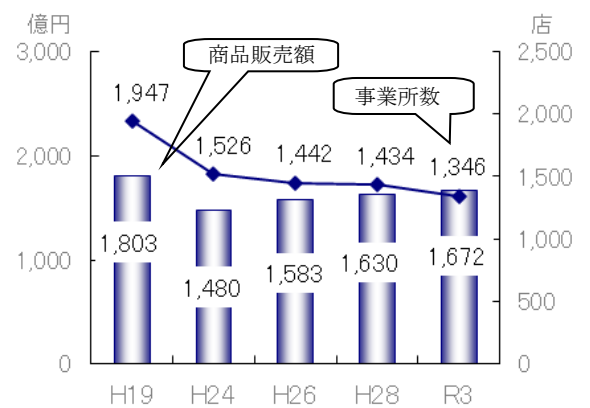
(4) 商 業

令和3年の小売業の年間商品販売額は1,672億円、事業所数は1,346店です。

市町村別では、飯田市が年間商品販売額全体の75%を占め、松川町、高森町を含めると90%となります。

なお、店舗面積1,000㎡超の大規模小売店舗は、令和8年4月1日現在で38店舗となっています。

【年間商品販売額・事業所数】



出典：「商業統計」「経済センサス」

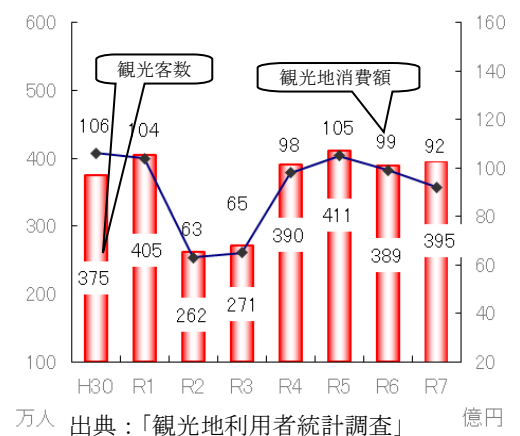
(5) 観 光

令和7年の観光客数は延べ395万人（観光地利用者統計速報値）と、対前年比で約1%の増加となりました。

地域の特色としては、恵まれた自然環境、豊かな食文化、温泉をはじめとした多様な観光資源が広い地域内に点在する小規模分散型となっています。

観光客は中京圏・東海地域を中心に県外客が約6割、日帰り客が9割を占める通過型の観光地となっていることから、一人当たりの観光消費額は県平均に比べ少なくなっています。

【観光客数・観光地消費額】



出典：「観光地利用者統計調査」

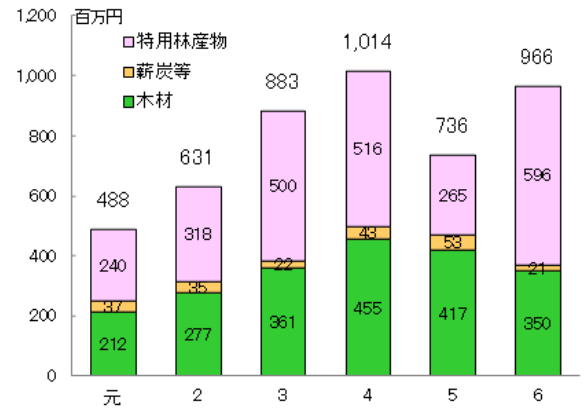
(6) 林 業

当地域の森林面積は約16万ha、森林率は約86%で、県平均の78%を上回っています。

再生産可能な森林資源を活用するため、3つの森林組合を中心に間伐や主伐による素材生産が進められているほか、信州木材製品認証や森林認証の取得など、木材利用促進の取組が行われています。

林業生産額は約9.7億円（R6年）で、きのこ等の特用林産物、薪炭等が6割を占めています。

【林業生産額】



出典：「長野県木材統計」「特用林産物統計調査」

5 交通

(1) 状況

管内は、JR飯田線及び中央自動車道が南北に走り、国道6路線（151, 152, 153, 256, 418, 474号）、主要地方道13路線、一般県道36路線が走っています。

管内の路線は未改良区間が多いため、生活基盤の一つである道路交通網の一層の整備促進が求められています。

(2) 三遠南信自動車道

自動車専用道路である国道474号三遠南信自動車道の飯喬道路（総延長22.1km）のうち、飯田山本IC～飯田上久堅・喬木富田ICの延長14.6kmは、令和元年11月までに開通しました。

飯田上久堅・喬木富田IC～喬木ICの延長7.5kmは早期開通に向けて工事が進められています。

飯田市南信濃で整備を進めている青崩峠道路（延長5.9km）では、平成31年3月から長野県側及び静岡県側でトンネル本坑の掘削に着手したのち、令和5年5月に貫通し、令和7年3月には本坑工事終了に伴う完成式が行われました。

(3) リニア中央新幹線

全国新幹線鉄道整備法に基づき、平成23年5月に国土交通大臣が整備計画を決定し、建設・営業主体にJR東海が指名されました。平成26年10月に、JR東海の工事実施計画（品川・名古屋間）が国土交通大臣に認可され、建設段階に入っています。

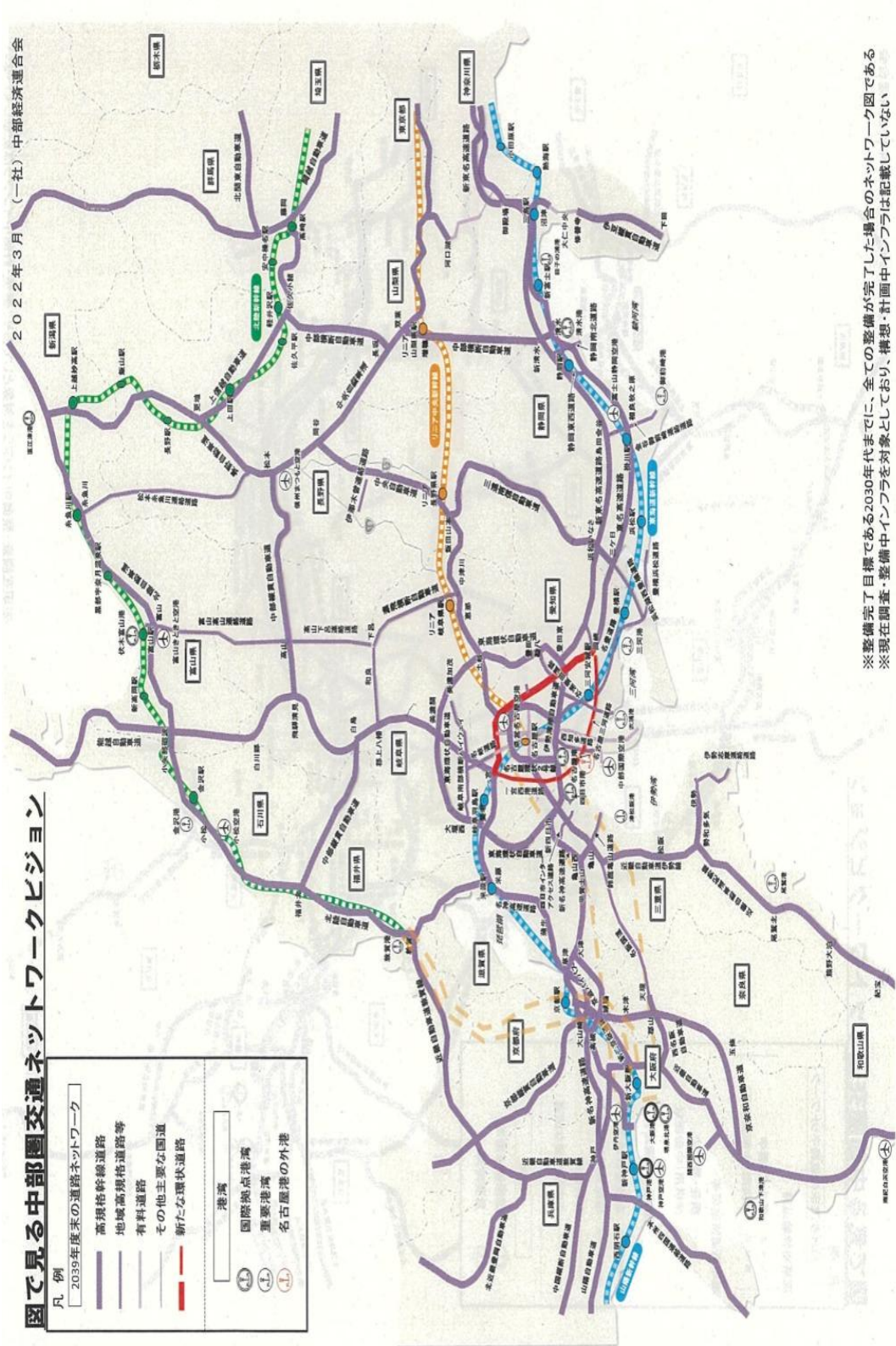
長野県内の路線延長は約52.9km（トンネル48.5km、地上部4.4km）で、飯田市上郷地区に長野県駅（仮称）が設置されます。平成28年11月に南アルプストンネル（長野工区）の安全祈願・起工式が行われ、現在は南アルプストンネル、伊那山地トンネル、中央アルプストンネルの本坑掘削が進められています。令和7年5月には、伊那山地トンネルの戸中・壬生沢工区と隣接する坂島工区が繋がりました。中央新幹線工事での本線トンネルが繋がるのは初めてとなります。

地上部については、令和3年10月より天竜川橋りょう工事に着手、令和4年12月には、長野県駅（仮称）の安全祈願・起工式が行われ、工事が進められています。

南信州地域JR飯田線
利用促進パンフレット



南信州地域周辺（中部圏域）の交通網整備



出典：一般社団法人 中部経済連合会 図で見る中部圏交通ネットワークビジョン